留学生活を終えて

聖マリア女学院高等学校　伊佐地　瑞希
（ニュージーランド）

私は、昨年の１月から日本を離れ、約１１か月ニュージーランドのカイアポイという町で留学生活を送りました。今となってみれば、あっという間の出来事で、今後の私の人生を豊かにする良い経験が出来たと思っています。私が留学をするのに力を貸してくれた、全ての人に感謝しています。

ただし、留学をし始めた頃は、とてもこんな気持ちになれるとは思ってもいませんでした。まず留学当初は、

・今までいつも傍にいて、私の事を何よりも大切にしてくれる家族がいない事
・私の相談に乗ってくれる大切な友人がいない事
・英語が話せず、誰ともコミュニケーションが図れない事

がストレスとなり、学校へ行くのが嫌で、部屋へ籠りながら暴飲暴食の日々が続きました。それでも、自分なりに英語を覚える努力をしていましたが、なかなか成果は現れませんでした。

そんな生活が数か月も続き、とにかく、日本へ帰りたい、私では留学生活は無理、こんな気持ちで毎日を過ごし、苦しくて苦しくて、このままでは自分が壊れてしまうのではないかとさえ思った程でした。特に、これから学校へ行かなければいけない朝８時頃は、ホームステイ先の人は皆仕事へ行ってしまい、１人きりになること多く、その時は不安で涙が止まりませんでした。

ニュージーランドと日本では約４時間の時差があり、そのころ日本は午前４時頃で、当然両親も寝ていることは分かっていましたが、どうしても我慢が出来ず、知らないうちに、泣きながら、苦しい、帰りたいと両親に電話で伝えていました。その時に、母からは

「努力は必ず報われる。だから、この苦しい状況から決して逃げないで。」

父からは、

「瑞希は、元々飲み込みが悪い。頭も良くない。だけど、努力の天才だ。」

と言われました。私も泣いていましたが、両親も泣きながら話しているのは、その声でよくわかりました。友人からも、同じように励ましを受けました。

そして、私は皆の励ましを受けながら、

「このままではいけない。頑張るしかないんだ、努力するしかないんだ。何事にも、積極的に取り組もう。」

と少しずつ気持ちを切り替え、額縁に

『私は、覚えが悪い　人の２・３倍努力する』

と書いた紙を飾り、それからは更に英語の勉強に力を注ぎ始めたのです。

すると、少しずつですが、全てが良い方向へと向かい始めました。

その一つは友人が出来たことです。私は、小さい時から空手を習っていて、中学の時に初段を取

り黒帯になりました。カイアポイにも空手の道場があり、ホストマザーが私を道場へ連れて行ってくれた事がきっかけで、同じ道場に通っていた高校の同級生と親しくするようになり、そこから更に輪が広がり、地元の友達が出来たのです。

そして、少しずつですが、英語が話せるようになり、更に輪が広がり、ドイツや韓国の留学生とも親しく付き合いが出来るようになりました。

それからは、留学当初のことが嘘のように、楽しい生活が始まり、地元の友達と一緒に遊びに行ったり、旅行へも行ったりしました。それと同時に、両親に電話をかけることも少なくなり、充実した留学生活を送ったのです。

私が、この留学生活で学んだ事は、英語だけではなく

・家族と友人の優しさや大切さ、そして感謝の気持ち

・人は１人では生きてはいけない事

です。

また、私がこの留学生活を通して自分自身で成長したなと思う事は、

・何事にも諦めなくなった事

・分からない事は、しっかり自分で理解するまで人に聞くようになった事

です。

私は、多くの方に海外留学という機会と支援を与えてもらいました。そしてこの留学生活で、楽しい事も苦しい事も学びました。今後は、そんな経験を持つ私だから出来る事として、日本へ留学する海外の学生に、少しでも日本の事を、そして日本人の事を理解してもらい、日本が好きになってもらえるように助けていきたいと思います。